

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

| | |
|-------------------------|--|
| 研究課題名 | 次世代型デジタルバイオアッセイのための動的フェムトリアクタ技術 |
| 研究代表者 | 野地 博行 (東京大学・大学院工学系研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在 |
| 研究期間 | 令和元(2019)年度～令和5(2023)年度 |
| 科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見 | <p>本研究は、これまで応募者が研究を牽引してきたオンチップ統合デジタル ELISA(抗原抗体反応分析)デバイスをさらに発展させ、溶液濃縮、液交換、回収などを同一チップ上で行い、かつ経時的な1粒子・1分子計測を行うことができる動的フェムトリアクタ技術の開発を目的としたものである。この技術を用いて、個々の酵素分子の個性解析を通じた「分子進化能力」の定量評価や、ウイルス粒子個性の解析、「薬剤耐性の獲得分子機構」の解析などを進める意欲的な提案である。</p> <p>本研究は、応募者のこれまでの研究実績をベースに新しいバイオ技術の確立を目指すもので、学術的独創性・独自性に優れた研究計画であり、生物医学の基礎から臨床まで幅広い知見の獲得が期待できる。</p> |